

機械器具 74 医薬品注入器
* 一般医療機器 単回使用輸液容器 35127000

アリメバッグ (DEHP可塑剤フリー)

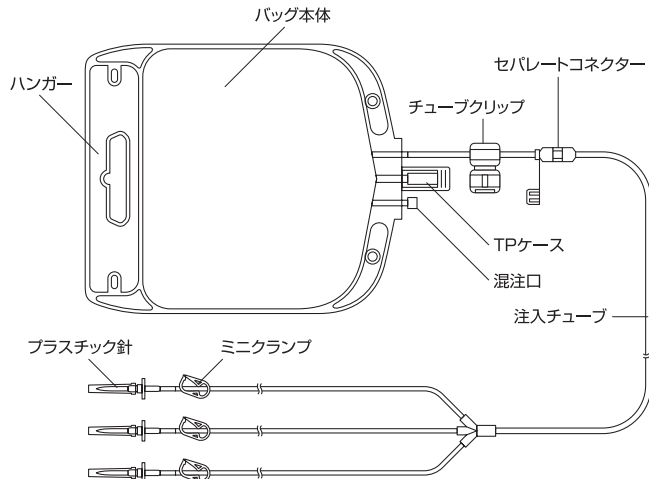
再使用禁止

【禁忌・禁止】
○再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

本品は、高カロリー輸液に用いられる輸液バッグであって、バッグ、連結管、プラスチック針等からなる。

<代表図>



* 本品はポリ塩化ビニル(可塑剤:トリメリット酸トリ-2-エチルヘキシル)を使用している。

*【使用目的、効能又は効果】

脈内輸液セットで投与する輸液混合物を入れるために用いるプラスチック製の容器である。本品は単回使用である。

【操作方法又は使用方法等】

- ** 1. 注入チューブに取り付けてあるミニクランプを閉じます。
2. 混注の終わった輸液剤の容器に注入チューブのプラスチック針とエア針を刺入れます。
<注意>プラスチック針とエア針には直接手を触れないようにして下さい。
3. 輸液剤の容器をハンガーに吊します。
4. ミニクランプを開きます。
<注意>なお、輸液剤の容器を途中で交換するときにはミニクランプを閉じて行って下さい。
<注意>アリメバッグへの必要量の輸液剤注入が終われば空になった輸液剤の一つを残し、その容器のラインに付いているミニクランプは開いたまま残りのミニクランプを閉じて下さい。
5. アリメバッグを軽く押して輸液剤の容器の方へ空気を送り出し、バッグ内のエアを抜きます。
6. チューブクリップを折り曲げて強く押してチューブを密封し、不要部分を切除します。
<注意>セパレートコネクター付きの場合はチューブクリップを閉じて密封し、セパレートコネクターをねじって外し、キャップを付けて下さい。
<注意>セパレートコネクターを取り外すとコネクター内部が汚染される危険があるので輸液剤注入後、チューブクリップを確実に閉じるまでは絶対に外さないで下さい。

7. ラベルに必要事項を記入してアリメバッグに貼付します。
8. TPケースを開き、輸液セットのプラスチック針を真っ直ぐいっぱいの深さまで刺通して接続し、輸液を行います。
9. 輸液を行うまではTPケースを開かずに冷暗所に保管します。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- 医薬品の添付文書を確認後、使用すること。
- * ○本品を使用するにあたって、目的とする製品であることを確認すること。
- 輸液剤は必ず無菌操作により調剤すること。
- 調剤が済んだ輸液剤は出来る限り短時間内に使用を完了すること。
- 万一、包装が破損、汚損している場合や製品に破損等の異常が認められる場合は使用しないこと。
- 包装を開封したら直ちに使用すること。
- 充填済みバッグを保管する場合はバッグの破損を防ぐため重ねないこと。
- * ○チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、さらに注射針の先端、はさみ等の鋭利なもので傷をつけないように注意すること。[液漏れや空気混入や破損が発生する可能性がある。]
- 輸液中は定期的に薬液の量をチェックし、確実に薬液が入っているかを確認すること。
- 輸液中は輸液セットを引っ張らないこと。
- * ○あらかじめ接続部に緩みや液漏れ等がないことを確認してから使用すること。使用中は本品の破損、接続部の緩み、薬液漏れ、空気の混入及び詰まり等について、定期的に確認すること。
- * ○プラスチック製品であるため、低温時の取り扱いには注意すること。[過度の力を加えると破損する可能性がある。]
- * ○チューブと硬質部材(コネクター等)との接合部付近でクランプを操作しないこと。[チューブがクランプに噛みこまれ、破損する可能性がある。]
- * ○チューブとコネクターの接続部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げるような負荷を加えないよう注意すること。[チューブの抜け、破損、伸び等が生じる可能性がある。]
- * ○製品の接続部等にひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。
- * ○接続部への薬液の付着に注意すること。[接続部の緩み等が生じる可能性がある。]
- 使用は1回限りとし、再滅菌、再使用はしないこと。
- 使用後は感染防止に留意し、安全な方法で直ちに処分すること。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

1. 貯蔵・保管方法
水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿をさけて保管すること。
2. 有効期間・使用の期限
外箱の使用期限を参照のこと(自己認証による)。

【包装】

10、20、25セット/箱

*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売(お問い合わせ先)
ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号
電話番号: 06-6372-2331(代表)

製造
ニプロ株式会社